

黒子のような存在

理事(ホームホスピス管理者) 櫻井 徳恵

先日、「ホームホスピスを立ち上げたい」という思いを抱き、全国ホームホスピス協会の「ホームホスピスの学校」で学んでおられる2名の方がみぎわに実習に来てくださいました。実習される中で私たちが「是非身に着けてほしい」と思い 伝えていた内容 それは「些細なこと」の連続でした。

お食事のときは、「今」この方にとっての食べやすい器、カトラリーはどれか。好みや体調に応じた調理の仕方、調味料の選択、硬さや大きさ、配置。そのほかにも お声をかけるタイミング、「今」扉をどのくらい開けておくのか、閉めておくのか。「今」お部屋にお邪魔しても良いときか、否か。どのような言葉を選び 物事を伝えるか。全てのことにについてその方に「大切にしてもらっている」と感じていただけますようにと願いを込めて 常に感じ考えつつ動く。

そのような動きに「黒子のようなですね」と実習生の方から感想をいただきました。主役は私たちではなく、その方で自身。生活を邪魔しないように、その方がその方らしい人生を歩めるように裏から支える。これからもそんな「黒子」のような存在でありたいと改めて思われた一言でした。

それから もうひとつ、私たちみぎわが大切にしていること。キリスト教を基としているみぎわでは、毎食前にお祈りを捧げます。(強制ではありません)特に朝食前の祈りでは、新しい一日を迎えることができた感謝や 今日一日 心も身体も魂も守られるように。また、今日一日を神様に委ねて、心穏やかに過ごすことができるようにと祈ります。

色々な苦痛や困難を抱えたおひとりおひとりが、一日のはじめに 自分よりも大きな存在に目を向け、その方に抱えている荷物を預け、全てを委ね、心に平安が宿ってほしい。そして、そのような思いを持って自分のために祈ってくれる人が側に居るのだということを感じてほしいと思うのです。

いと静けき港なる“みぎわ”

監事 葛西 隆憲

私は21歳の時、キリスト信仰と出会いました。当時の私はこの世が白黒映画かのように見えていました。そのような私に、イエス・キリストは出会って下さり、私にもう一度鮮やかな色をプレゼントして下さったのです。その時、教会で讃美されていた曲で、約27年経った今でも大切にしている讃美歌があります。それは、「人生の海のあらしに」です。

「人生の海の嵐に 揉まれしこの身も 不思議なる神の手により 命びろいしぬ いと静けき港に着き 我は 今 安ろう 救い主イエスの手にある 身はいとも安し」

私はこの讃美歌に導かれるように、人生には嵐がある事、しかしいと静けき港がある事を経験しました。ホームホスピスみぎわで、住人さんとお話をさせていただく時、人生の先輩方が、厳しい人生の嵐を幾度となく通られたこととお聞きするのです。しかし、信仰の有無に関係なく、病や目に見えない多くの痛みを抱えているにもかかわらず「今はここ(みぎわ)で安らいでいる」と皆さんがおっしゃり表現します。いと静けき港なるみぎわに「ただいま」と帰る時、私も不思議に心が安らぐのです。

2024年度 法人活動報告



■ホームホスピスみぎわ

現在入居者様5名(満床)。長い方は5年滞在中。今年度はお看取り5名で、短い方は入居期間17日。また、過ごされていたお部屋で小さなお葬式をされた方もおられた。生活の延長上に死を迎え、死を超えてなおも この場所を用いてくださるなど、人生の最期の日々を穏やかに自分らしく過ごされ、また見送る場所として今年度も用いられてきた。ご本人だけでなく大切な人を送られるご家族をも支えるべく、日々支援を続けている。

■養子縁組あっせん事業

お子さんの新規委託1件、特別養子縁組成立1件、実親相談36件中23件は、子どもの障がい相談理由。特定妊婦様のご相談が10件、その内6件を他団体様と協働で支援。養親問合せ39件。養親説明会5回開催、1組登録完了。また今年度は法令に則り、第三者評価を受審。障がいの有無に関わらず、一人でも多くのお子さんを安心して暮らせるおうちへお繋ぎ出来るよう支援を続けている。

■啓発活動

啓発活動として、ブログやSNS等による活動報告、情報発信の他、ニュースレター発行1回、講演活動5回、大学ゼミや同事業立上げを検討されている方からのインタビュー2回、実習生の受入れ2回、を通して、法人の活動への理解、支援、協力の呼び掛けを行う。

道の駅“クロスウェイ中町” おでかけ

ホームホスピス介護スタッフ
高橋 弘子

毎年恒例のみぎわの『お庭でお花見』。今年は天候と住人の皆さまの体調が合わず、見送りに。住人の皆さまもスタッフも楽しみにしていたのに残念…。何か他に楽しいイベントはないかな？

そうだ、新しくできた道の駅にお出かけしましょう!お昼ご飯を済ませ、みんなで車に乗ってさあ出発!早速奈良の名産品が並ぶお店へ。家族へ、自分へ、それぞれにお買い物を楽しめます。『晩ご飯、何にしようかしら?』と主婦モードになる方も。

お買い物の後はお楽しみのソフトクリーム!皆さん目がキラキラ、嬉しそうに召し上がります。それを見たスタッフもほっこり。『美味しかったね』『お留守番の方にお土産を買って帰りましょう』『今度はカキ氷が食べたいね』会話も弾みながら帰路に就いたのでした。

